

令和3年7月5日
岐阜大学大学院教育学研究科

附帯事項（助言事項）への対応について

【助言事項1】

「学校管理職養成」分野に関して、実務経験者だけでなく、当該分野の専門の研究者教員を配置することが望まれる。

【対応】

教職実践開発専攻の学校管理職養成コースは以下の7名の教員が担当する。

研究者教員 3名

教授 柳沼 良太…研①、准教授 吉澤 寛之…研②、助教 芥川 祐征…研③

実務家教員 4名

教授 平澤 紀子…実①、教授 棚野 勝文…実②、特任教授 原 尚…実③、
准教授 柴崎 直人…実④

研究者教員のうち、研①は道德教育や生徒指導を主な研究分野としており、問題解決的な学習、体験的な学習などの研究内容について豊富な研究業績を有している。また、学校管理職のあり方と関係が深いスクールリーダーに関する専門科目を担当する。研②は学校現場の教師が実際の生徒指導や教育相談を行う上で有効に活用することが期待される心理研究分析の理論と方法および心理教育プログラムの開発・実践に関する研究の他、学校運営におけるチームワーク尺度に関する研究論文を著すなど研究者教員として十分な研究業績を有している。研③は教育経営学を主な研究分野としており、特に校長職に求められる専門性、資質・能力の養成制度に関する研究を専門としている。

実務家教員のうち、実①及び実④は「元実務家」の大学教員であり、それぞれ当該分野における実務経験のみならず十分な活字業績も有している。実②及び実③は学校教育に関する実務経験者である。

このようにコース全体で見ると、当該分野を専門とする研究者教員3名（研①、研②、研③）、「元実務家」の大学教員としての実務家教員2名（実①、実④）、学校教育に関する実務経験者としての実務家教員2名（実②、実③）とバランスのとれた教員構成となっており、これらの教員が協働することにより「学校管理職養成」分野に求められる教育を行うことができると考える。

【助言事項2】

管理職養成コースであれば、「カリキュラムマネジメント論」や「リーダーシップ論」等、「教育実践をリードし、多様な教育課題を解決へと導いていくことのできる資質・能力について学修するため」の科目などが開設されることが望ましい。

【対応】

学校管理職養成コースに開設する専門科目「スクールリーダーの教育哲学」及び「開発実践基礎」「開発実践報告Ⅰ」「開発実践報告Ⅱ」にマネジメント論やリーダーシップ論等に関する教育内容が含まれている。

専門科目「スクールリーダーの教育哲学」では、スクールリーダーの人間観、教育理念、指導方針、教育目標、人事評価等を考察し、具体的な学校経営と関連づけて構想できるようにするとともに、スクールリーダーの学校経営の方針や哲学を確立し、教育実践として展開できるようにすることを目標として、学校のマネジメント論、リーダーシップ論、コーチング論と関連づけて実践的な教育哲学を追究し、院生一人ひとりがこれまで観察または実践してきた学校経営の教育実践の内容を振り返って哲学的に考察するとともに、今後目指したいスクールリーダー像を構想し実践哲学として構築する。

また、専門科目「開発実践基礎」及び「開発実践報告Ⅰ」「開発実践報告Ⅱ」では、地域や学校が抱える今日的な教育課題や自身の立場における探究課題について、学校管理職の立場から理論と実践の両面で課題解決に資する実践開発ができるようになることを目標とし、教育に関する諸課題に対し、開発実践のテーマを明確にし、実習校での実践を通じてその課題解決に向けた実践開発を行う。

以上の科目を履修することにより、「教育実践をリードし、多様な教育課題を解決へと導いていくことのできる資質・能力について学修する」ことが可能となっている。

【参考】

— 専門科目「スクールリーダーの教育哲学」概要 —

(授業のテーマ及び到達目標)

スクールリーダーに求められる資質・指導力・経営力に関する教育哲学について理解を深めることができるようにする。スクールリーダーの人間観、教育理念、指導方針、教育目標、人事評価等を哲学的に考察すると共に、具体的な学校経営と関連づけて構想できるようにする。

スクールリーダーの学校経営の方針や哲学を確立し、教育実践として展開できるようにする。

(授業の概要)

スクールリーダーの基本哲学を根本的に理解し、それを学校経営に応用実践する方

法と技能を習得することによって、教育の実践力を総合的に高める。ソクラテス、J.デューイ、A.マズロー、P.F.ドラッカーの哲学や経営論を取り上げ、人間論・人生論・教育論・経営論などの見地から学校教育のあり方を多面的に探究する。

以上のようなスクールリーダーの教育哲学を元にどのような学校経営が展開できるかについて検討する。具体的には学校のマネジメント論、リーダーシップ論、コーチング論と関連づけて実践的な教育哲学を追究する。

中間発表及び最終発表では、院生一人ひとりがこれまで観察または実践してきた学校経営の教育実践の内容を振り返って哲学的に考察すると共に、今後目指したいスクールリーダー像を構想し実践哲学として構築する。

— 専門科目「開発実践基礎」概要 —

(授業のテーマ及び到達目標)

幼稚園・小学校・中学校・高等学校教育にかかわり地域や学校の今日的な教育課題や自身の立場における探究課題について、ミドルリーダーや学校管理職の立場からそれらを実践的に解決するために、問題意識の明確化、課題の分析、開発実践計画を策定できる能力を獲得する。

(授業の概要)

幼稚園・小学校・中学校・高等学校教育に関する諸課題に対し、学校管理職、教員として、地域や学校の今日的な教育課題や自身の問題意識を基に、国や自治体の教育政策、学校の現状、先行研究を踏まえて、開発実践のテーマを明確にし、それを解決するための計画を策定できるようにする。

— 専門科目「開発実践報告Ⅰ・Ⅱ」概要 —

(授業のテーマ及び到達目標)

幼稚園・小学校・中学校・高等学校教育にかかわり地域や学校が抱える今日的な教育課題や自身の立場における探究課題について、ミドルリーダーや学校管理職の立場から理論と実践の両面で課題解決に資する実践開発ができるようになる。

(授業の概要)

教育における諸課題に対し、学校管理職、教員としての立場から理論と実践の両面で課題解決に資する研究テーマを取り上げ、実習校での実践を通じてその課題解決に向けた実践開発を行う。その作成においては、定期的な担当教員とのゼミを用いた検討過程を重視する。開発実践報告Ⅰでは、開発実践計画を実践し、実践研究の進め方や報告原稿の作成方法を指導する。開発実践報告Ⅱでは、報告原稿の作成方法や成果報告のためのプレゼンテーションを指導する。